

『自殺を減らす＜社会的な実験＞』 出版企画書第1版

本書の基本構成

初めに・「予防」も重要だが、いまは「阻止」が急務！

○自殺するまでの＜6段階＞

(想起→堂々巡り→絞り込み→時期と方法を決断→躊躇う→決行)

〈実験1〉自殺に関する「知られざる事実」を全て公表していく

○発表人数以外にも「把握できていない自殺者が多い」という事実

○自殺した「本当の理由」は本人にしか判らないという事実

○「周囲に漏らしたコト」「遺書に書いたコト」が真実とは限らない

〈実験2〉自殺について「本音で語る」番組を定期的に放送する

○「本気で自殺しようとした者」の体験から得られることは多い

○電話やネットでの意見や回答は「体験者」と「未体験者」に分ける

○「自殺を美化する文化」をあえて否定する立場での発言を認める

○「死者を鞭打つこと」であっても「阻止」に必要であれば躊躇わない

〈実験3〉＜自殺する権利＞についてのアンケートを実施してみる

○現状は自殺を「個人の自由」(野放し・放置)にしている

○＜自殺する権利＞を認めるなら安楽死や幫助も認めることになる

○＜自殺する自由＞を認めたとしても年齢制限は必要だ！

○＜自殺する権利＞を認めないなら＜自殺禁止法＞を制定すべきだ！

〈実験4〉＜法規制＞の是非を議論しアンケートを実施してみる

○自殺による第三者への迷惑や損害は減らすべきである

○自殺を例外無く法律で禁止するのが＜自殺禁止法＞

○一定の管理下以外の自殺を処罰の対象とするのが＜自殺取締法＞

○＜自殺取締法＞と＜自殺禁止法＞の違いを比較一覧表にしてみる

〈実験5〉＜自殺の作法＞や＜自殺のルール＞を作成して広めてみる

○「身近な人」を「悲しませない」「苦しませない」という鉄則

○第三者に迷惑を掛けてはいけないという鉄則

○犯罪を疑われたままの自殺は「やっぱり」と思われるコトを知れ！

○「自殺したら認めたことになる」ことが定着したら自殺できなくなる

〈実験6〉「自殺には生命保険金は支給されない」コトにする

○その法的根拠は「自宅放火は対象外」の損害保険と同じである

○「自殺は鬱という心の病の果て」だからという理屈は正しいのか？

○「自殺にも保険金が出る」ようになってから自殺は増えた？！

○「遺された家族が経済的に困る」ことへの対策は別の方法が有る

〈実験7〉＜人身事故＞と＜列車妨害＞をいつも区別する

○電車が停まっている理由を「人身事故で」と言うのは嘘である。

○「電車への飛込自殺」は「列車妨害」という犯罪であることを判らせる

○遺された家族に多額の損害賠償が請求されるのは噂か？真実か？

〈実験8〉自殺希望者の要望を聴いてあげる「支援室」を開設する

○「苦しまずに死にたい」という人は指定病院に来させる

○「生活苦で死にたい」という人には「公的資金」を融資する

○「病苦で死にたい」という人には遺言や一代記を書かせる

終わりに・「自殺希望者」に会わなければ「阻止」できない

企画の主旨

①日本では「人はなぜ自殺するのか？」
「あの人はなぜ自殺したのか？」など
「自殺理由」についての関心は高いのに、
「自殺を減らすにはどうすればいいか？」
については真剣に考えられていない。

②そんな現状に対して、本書で「こんな方法があります！」
「それをみなさんはどう思いますか？」という話題と課題を提供して
「自殺阻止」の一助になりたい。

③本書で提案されているコトが実際に法制化され、実現することを目指している。

④本書自体がこの実験の第一歩である。

対象とする読者

「日本に自殺が多い」ことに憤りを感じ、
「自殺者の出ない社会」を切望している人

キャッチフレーズ

[自殺の美学・自殺の文化]からの決別を！

「自殺者が多い」のは誰の責任か？

「少しでも効果が期待できるコト」は、すぐにでも実験してみよう！

「効果が有るか？無いのか？」で議論していたら結論はいつまでも経っても出ない！

他のタイトル案

『自殺禁止法 or 自殺都取締法』

『自殺禁止法 vs 自殺容認法』

『自殺ストップ緊急手段』

『自殺防止社会への実験』

本書のスタイル

新書版 180頁～200頁・43字×15行

本書に続く執筆企画

『犯罪者を減らす10の実験……』

『ニートを減らす10の実験……』

『格差社会を解消する10の実験……』

著者プロフィール

小久保 達 (こくぼ さとし)

1949年4月24日東京・板橋区生まれ。

都立北園高校卒 明治大学文学部中退

建材調査会社、自営、社員研修会社ジェックを経て

1985年創業開発研究所を開設、現在に至る。

起業関連の著書は9冊。

2001年から岐阜大学産官学融合本部客員教授。

現住所・埼玉県飯能市久下 457-8-902

TEL/FAX 0429-74-8417 創業開発研究所